高活協通信（2023 年 9 月号）

発行：一般社団法人 高齢者活躍支援協議会
http://www.agenomics.org

❖❖❖高活協ニュース❖❖❖

■お知らせ

〇今月の“「定年後の仕事」情報欄”は、“連載「定年後の仕事はジョブ型」”の第 2 回目です。
〇高活協通信「今月の一冊」は、「マンション管理員オロオロ日記」です。
〇高活協ホームページを更新しました。
・「高活協ホームページ」の URL は以下の通りです。
http://www.agenomics.org

高活協は会員の皆様に毎月 1 回「高活協通信」を配信させていただいております。この通信活動を会員の皆様と高活協とのコミュニケーションの機会とさせていただきたく考えております。つきましては、皆様のご意見や提供したい話題などがございましたら、本配信メールへの返信にてお寄せいただければ幸いです。

■2023 年 8 月の主な活動

〇高活協は現在、シンポジウムなど人が多く集まるイベント活動を停止しております。ただし、少人数の会議・イベント等、あるいは ZOOM 等を利用したオンラインの会議・イベント等は適宜実施しております。
〇2023 年 8 月 1 日、高活協が連携している一般社団法人未来社会共創センターの総会に理事として出席しました。同総会で任期が終了する理事の選任が審議され、高活協を含む全理事の重任が決定しました。なお未来社会共創センターは、東京大学高齢社会総合研究機構が中心となって設立した一般社団法人で、高齢社会の具体的な課題解決方策を提案し、その試行的な社会実装活動を行っています。
〇“「定年後の仕事」情報欄”では、先月号から「定年後の仕事はジョブ型」を連載しています。
〇高活協ホームページの「高活協アーカイブ」ページにおいて、「高活協通信（2023 年 8 月号）」を掲載しました。
〇2023 年 8 月、生涯現役社会の実現に向けた行政や企業などの動向に関する情報収集を行いました。なお、「**❖❖❖生涯現役社会の実現に向けて－ トピックス❖❖❖**」のコーナーでは、“「定年後の仕事」関連情報”を適宜掲載していきます。

❖❖❖高活協主催/共催イベントの紹介❖❖❖

■これまで高活協が主催した（共催含む）イベントの報告書/記録集

過去に高活協が主催・共催したイベント（シンポジウム、セミナー/フォーラム）の報告書や記録集は、高活協

ホームページの「高活協アーカイブ」ボタンをクリックしてご覧になれます。(ホームページは下記 URL)
http://www.agenomics.org/

❖❖❖高活協会員関連イベント等のご紹介❖❖❖

会員のご希望があればご紹介記事を適宜掲載させていただく予定です。

❖❖❖生涯現役社会の実現に向けて ― トピックス❖❖❖

生涯現役社会は、「職業寿命」「社会活動寿命」「健康寿命」「資産寿命」という 4 つの寿命の延伸が相乗効果をもたらす社会、すなわち「それぞれの寿命の伸びが相互に他の寿命も伸ばす」という好循環がもたらされる社会です。そんな生涯現役社会の実現に向けた最近の動きを紹介していきます。

■ちょっとした話 ― 「ブルシット・ジョブ」とは？

「ブルシット・ジョブ」という言葉を耳にしたことはありますか？・・・「会社などで働く被雇用者本人でさえ、無意味で、不必要で、時には有害でさえあると思っていても、給料をもらっているので、そうではないと取り繕わなければならないと感じるジョブ」・・・と言ったような意味のスラングだそうです。

例えばメンバーシップ型雇用制度の会社では、必ずしも自分のやるべき職務(ジョブ)が明確に決まっているわけではありません。今までやってきた職務が終了した後など、当面は生産性の向上に資するような職務がなくても、何もしないで給料をもらうわけにはいきません。何らかの職務をやっているように見えることが必要になります。そこで登場するのが「どうでもいいような職務」すなわち「ブルシット・ジョブ」です。

ブルシット・ジョブの発生は現役世代に限って見られる光景ではありません。実は定年後の再雇用(継続雇用)においても多く見られるようです。しかし、定年後に「ブルシット・ジョブ」が発生するのはおかしな話です。なぜなら定年後はメンバーから外れるわけですから、新たな職務に従事するための社内労働移動はありません。つまり定年後の雇用は基本的にジョブ型です。ジョブ型雇用では生産性の向上に寄与するような職務(ジョブ)を切り出し、その職務に従事してもらうのが原則だからです。

■「定年後の仕事」情報欄

○2021 年 4 月から施行された改正高年齢者雇用安定法(＝70 歳就業法)では、定年後の継続雇用だけではなく、継続的な業務委託や社会貢献活動への支援といった措置も選択肢になっており、高齢者の多様な働き方を後押ししています。

○今後このトピックスのコーナーでは、「定年後の仕事」に関連した情報を適宜掲載していきます。高齢者の就業を考える際の参考にしていただければ幸いです。

連載「定年後の仕事はジョブ型」

1960 年代は高齢者(65 歳以上)の就業率が 30%を超えていた

総務省の調査（2022 年）によると、高齢者の就業率は 25.3％で過去 10 年間増え続けています。しかし 2012 年より前の時期を見ると、高齢者の就業率は逆に減少傾向にありました。実際 1968 年の 33.6％をピークに減少傾向が続いていました。それが 2012 年を境に反転、以後増加傾向が続いています。やはり 65 歳までの雇用義務化を定めた改正高年齢者雇用安定法（2012 年成立）の影響が大きかったと思われます。

1960 年代は自営業や農業に従事する高齢者が多かった

まだ 1960 年代は高齢者の数も少なく、65 歳を過ぎても働き続ける高齢者は、自営業や農業に従事する人が多かったのではないかと思われます。その後わが国では、団塊世代など多くの若者が被雇用者（サラリーマン）となり、年月を経て次々に定年を迎えました。ここ 10 年の高齢者就業率の増加は、定年後も働き続ける被雇用者が増えてきたことに起因しているものと思われます。

定年後の就業はジョブ型

自営業や農業の場合、基本的に「ブルシット・ジョブ」は存在しないと思います。自分のやるべき職務（ジョブ）が明確だからです。しかし、被雇用者（サラリーマン）が定年後も就業を続ける場合、それまでのメンバーシップ型の意識から抜け出せるかどうかが問われます。定年でメンバーから外れるわけですから、雇用形態は基本的にジョブ型になります。上記の「ちょっとした話」欄で紹介したように、生産性の足を引っ張るような「ブルシット・ジョブ」に従事することはないはずです。

定年後のジョブ型雇用導入事例に注目

「三菱 UFJ 信託銀行は 60 歳以上の再雇用社員を対象に、職務内容を明確に定めるジョブ型雇用を導入した」との記事が、2023 年 8 月 4 日の日本経済新聞朝刊に掲載されていました。

・・・・・同社には現在、「パートナー嘱託」と呼ぶ再雇用社員が 400 人ほど在籍するが、「シニアジョブコース」という名称でまず 70 人程度を対象に試験的に導入した。半年ごとに人数を増やして 25 年に正式導入し 26年までに 200 人規模に拡大する。最終的に再雇用社員の半分にまで認定をひろげる考えだ。職務内容的には、市場部門などでの指導役や対外的に講師を担ったり、現場の営業に精通していたりする人材への適用を想定する。業務内容は社員ごとに「職務定義書」を作成して決め、給与は職務の内容に応じて支払う。・・・・・

いずれにしても今後ますます再雇用社員が増加する見通しの中、高齢社員が「ブルシット・ジョブ」ではなく、生産性の向上に貢献できるようなジョブに携われる環境づくりが急務になってきています。三菱 UFJ 信託銀行の事例が今後どのように展開していくか注目されるところです。

定年後のシニア向け外部労働市場の形成が望まれる

年功序列や終身雇用が主流であった我が国の労働市場は、いわゆる内部労働市場（企業内での労働移動）が中心でした。しかし内部労働市場だけで常に生産性に貢献するジョブを見つけられるとは限りません。ましてや定年後は一旦企業の外に出るわけですから、企業内で移動するわけにはいきません。そこで定年後の就業は少なくとも形式的には外部労働市場を通じて行われることになります。

高齢者就業率が右肩上がりの今、我が国における定年退職者向けジョブ型外部労働市場の形成・整備は極めて重要な課題です。定年後の高齢者がジョブを見つけることができる機会を飛躍的に拡大するために必須となってきているからです。

❖❖❖読み物コーナー❖❖❖

■今月の１冊

人生 100 年時代を迎え、シニア層の増加を意識した書籍が増えているようです。このコーナーでは、高齢者の就労に関わるテーマや高齢者の社会参加、ライフスタイル、健康問題などを取り上げている書籍を紹介します。

書　名：マンション管理員オロオロ日記

著　者：南野（みなみの） 苑生（そのお）

出版社：三五館（さんごかん）シンシャ（発売元：フォレスト出版）

（URL　https://www.forestpub.co.jp/author/minamino/book/R-0058）

定　価：1,430 円（税込）

今回は、定年退職後のシニアが選ぶ仕事の代表とされる「マンション管理員」を取り上げた書籍を紹介します。本書のキャッチコピーに「当年 72 歳、夫婦で住み込み、24 時間苦情承ります」とあるとおり、著者の南野さんは 70 代で夫婦住み込みのマンション管理員を務めている方だということがわかります。ベテランのマンション管理員が筆を執っているだけあって、マンション管理員の仕事の裏と表がリアルに、時にはユーモアを交えて描かれているところに本書の面白さがあるといえるでしょう。

著者は、59 歳の時に事業（広告プランニング会社の経営）に失敗し、背に腹は代えられず、夫婦でマンション管理の世界に飛び込んだといいます。そして、いくつかのマンションの管理員を経る中で、マンション管理員が、住民やマンション管理会社に翻弄される存在であることを、身をもって経験します。

本書を一読すると、管理員室での出来事、管理組合の理事長やマンション管理会社の担当者とのやり取り、住民とのやり取り、管理業務にまつわるさまざまなトラブルなどなど、マンションには本当にいろいろな人が関わり、日々さまざまなトラブルが管理室に持ち込まれるということがわかると思います。そして、在職 13 年の経験をもとに、著者はマンション管理の仕事は「酸いも甘いも噛み分けた器量の持ち主でなければ、本来できない職務なのである」との結論に至ります。マンション管理員の仕事は、若者には対応が難しい仕事ということになるのでしょう。

本書の刊行後、本書を原作とした『マンガでわかるマンション管理員』が刊行されたようです。手間ひまをかけて書籍をマンガ化するほど、本書はよく売れたのかもしれません。マンション管理員の仕事に興味があるシニア層はもとより、マンション管理員と接する機会が多い、マンションの居住者の方々にとっても、一読の価値がある読み物ではないかと思います。

（特別会員：坂巻　大）

■高齢者雇用の総合誌『エルダー』のご紹介

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が発行する高齢者雇用の総合誌「エルダー」に関する情報

は、下記の URL からご覧いただけます。
啓発誌「エルダー」｜独立行政法人　高齢・障害・求職者雇用支援機構（jeed.go.jp）

◆◆◆――◆◆◆

配信先メールアドレスの変更をご希望の方、また配信が不要な方は高齢者活躍支援協議会・事務局までご連絡ください。
本通信に対するご意見やご感想をお聞かせください。
また、本通信に掲載してほしい情報等がありましたら、ぜひご連絡ください。

一般社団法人高齢者活躍支援協議会
〒103-0026　東京都中央区日本橋兜町 17-2　兜町第 6 葉山ビル 4 階
TEL：　03-6555-3926　　HP：　http://www.agenomics.org